

庄原市農地利用最適化推進委員の追加募集の推薦及び応募の状況（最終公表）

令和8年5月1日現在

2.【応募の状況】

受付番号	応募者											農業委員への応募の有無		
	担当地区	フリガナ氏名	年齢	性別	職業	経歴		農業経営の状況					応募する理由	
						期間	名称・役職等	経営形態	営農年数	年間農業従事日数	耕作面積			営農類型
1	庄原12	ミヨシ カズヒロ 三吉 和宏	74	男	自由業	H15.1.1～H17.3.31 H17.3.31～H19.3.31 H29.7.20～R5.7.19	庄原市農業振興課長（兼務：庄原市農業委員会事務局長兼務） 庄原市地域振興部農村振興課長 庄原市農業委員会委員	自由業	-	-	11.0a	-	私は、中立委員の立場で6年間農業委員として活動しましたが、令和5年7月の改選時においては、女性委員候補を優先し応募しませんでした。 しかし、当時、退任にあたり、庄原市の中山間地域の農用地対策施策への集中度には、非常に不満を抱いておりましたので、庄原12地区の推進委員の応募が期限内に無かったため、推進委員として庄原市農業委員会の農用地施策に関わり、少しでも庄原市域における農村地域計画の策定、農用地利用の最適化に参画・実践したく応募いたしました。 今回の改選においても、庄原12地区において3年前の時の思いは変わっていませんので引き続き参画・実践したく応募します。	無
2	高野5	ナガン ヒデキ 長曾 英樹	58	男	農業	S64.4.1～ R5.7.20～	就農 庄原市農地利用最適化推進委員	専業	37	280	300a	水稲 果樹	私は地域の農業発展を持続可能な食料生産に強い関心を持っています。 これまで農業経営や地域ブランドの構築、地域のつながりに関わってきた経験を生かし、農地利用最適化推進委員として生産者、地域の声を代弁して制度や農地利用の改善に寄与したいと考えています。	無
3	高野2	イノウエ カズヒト 井上 一仁	73	男	農業	S49.4.1～H22.3.31 H26.4.1～R2.3.31 H29.7.20～現在	高野町及び庄原市職員 高野支所地域振興室長 庄原市高野地区公衆衛生推進会 副会長 庄原市農地利用最適化推進委員	専業	41	250	120a	水稲 露地野菜	私は高野町及び庄原市職員として勤務し、市町合併と同時に始まった庄原市農業自立振興プロジェクトのメンバーとして方策策定に携わったのち、本庁農業振興課に振興係長として配属され、3年間農業振興と農業生産法人育成を担当してきた。 退職後は、平成22年に地元で設立した農業生産法人で構成員及び役員として活動し、地域の農地保全や農地利用の効率化に努めている。 高野町は、農業が元気な町として若い農業者が多い反面、小規模高齢農家や後継者のいない農家また不在地主も多く、耕作放棄などにつながらないよう引き続き地域の農業生産法人や農地集積希望農家に農地流動化を図ることが必要と考えている。 発足当初から推進委員として活動してきたが、高野2地区の中心集落にはこうした農家が非常に多くあり、さらに、ほ場整備も行われていないところも多く、小規模、不整形の水田がある。したがって農地の保全、有効活用が思うように進まないこともあるが、地区内に存在する集落法人との連携を密にし、今までの農家との交流による情報集積を活かしながら引き続き本地区担当推進委員として農地保全、効率的有効利用推進に努めていきたい。	無
4	庄原9	ツカハラ ハルオ 塚原 春雄	67	男	農業	R5.7.20～現在	庄原市農地利用最適化推進委員	専業	18	250	631a	水稲	庄原市役所退職後、農業に専念し、令和5年7月20日から農地利用最適化推進委員として委嘱を受け、その間、地域から耕作放棄地を出さないよう心がけ活動してきました。引き続き、微力であるが委員としてできることをしていきたいと思っておりますので応募します。	無
5	高野4	オオサカ タケシ 大坂 健	44	男	農業	H29.7.20～現在	庄原市農地利用最適化推進委員	専業	22	240	318a	水稲 果樹	引き続き、地元の耕作放棄地が少しでも無くなるような活動、現在の農地が維持できるよう尽力したい。農地パトロールを積極的にしたいと思います。	無
6	高野6	ゴトウ ノブフサ 後藤 信房	75	男	農業	H7.4.1～H13.3.31 H20.11.11～R8.4.30 H29.7.20～現在	高野町役場産業係長 農事組合法人高暮代表理事 庄原市農地利用最適化推進委員	専業	48	100	水田 100a 畑 150a	水稲 露地野菜	近年、農業に対する負担により農家全体が疲弊しており、このままで行くと私たちの住む地域では、農業従事者の高齢化、田畑の耕地の荒廃の進行により地域の崩壊に繋がりがねない。 これからは、水田にとらわれず、施設園芸等高収益の上がる作物の技術の取得、後継者の育成が必要である。 これらのことから、農業法人、認定農家への土地の集約等農地利用の最適化を推進するため、庄原市農地利用最適化推進委員に応募します。	無